

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691200020		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム 希		
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994番地		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者様に季節感を感じて頂けるよう、各階の壁面飾りを工夫している。
2. 令和2年11月より、新たに、1階浴室にリフト浴装置を導入している。重度の利用者様が楽に入浴でき、利用者の快適さの向上や職員の腰痛予防に効果があります。
3. 利用者様の定期受診や随時の受診を行い・家族様への連絡を行い、健康状態の維持向上に努めている。
4. 何事も強要することなくゆったりとした利用者様のペースに合わせて支援している。
5. 日中のレク活動に参加していただき、夜間不眠にならないよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に田畑が広がる自然豊かな環境のなかに位置している。理念にそって、利用者一人ひとりの個性を理解し、前向きに暮らすことができる安心・安全な環境づくりを行っている。壁飾りの制作や手作業を利用者と一緒に行うことで、つくることの楽しみや季節を感じることができるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、地域の清掃活動を行ったり、民生委員と情報交換したりして、交流を継続している。少人数にわかれて菊形展に出かけるなど、工夫して外出を支援している。協力医療機関や訪問看護と連携し、利用者の健康管理を行っている。夜間や緊急時にも対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心に繋げている。職員は、温度・湿度管理、水分補給等に気を配り、利用者が快適に暮らすことができるよう支援している。昨年からのリフト浴を導入し、安心・安全な入浴環境の整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者への思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域における社会的役割を踏まえ、法人の理念や当所の理念に基づいて職員で共有し日々のケアにつなげている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成している。現状に即した理念となるよう、職員間での見直しもやっている。理念は、共用空間に掲示し、会議の際に立ち返ることで、職員間での共有化を図り、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防による、自粛がある為敷地内施設間も交流しておらず、厳しい状況が続いている。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下においても、地域の清掃活動を行うなどして、交流を継続している。日ごろの民生委員と会話のなかで、地域の情報を得たり、事業所の現状を伝えたりして、交流している。地域住民からの認知症についての相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により、地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防のため、会議開催を見合わせている。運営推進会議メンバーには、状況報告を送付しています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員に事業所の入居状況や活動等を書面で送付している。管理者は、各委員から報告内容等について意見を得たり、地域の多様な出席者を得たりして、より充実した会議になることを目指している。	今後は、派出所や消防団等、地域の多様な出席者や事業所の報告内容等についての意見を得ることができるよう働きかけに努められたい。また、出された意見を職員間で共有・検討することで、サービスの質の向上に繋がることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市町村へは、出向いたり電話などで状況を伝え、いろいろな情報を得ている。	管理者は、月1回、町の担当窓口を訪問し、事業所の報告や情報交換を行っている。感染症の流行下における運営推進会議の開催方法や感染症対策について相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。また、町主催のオンライン研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修も行い職員間で共有し、職員相互で注意したり、身体拘束排除に向けたケアを実践している。	事業所では、定期的に身体拘束に関する研修を開催している。外部研修への職員の参加も推奨し、職員間で共有している。日中は、玄関を開錠している。利用者一人ひとりの個性を把握し、見守ることによって、自由で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待においても、研修を行い職員全体で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、成年後見制度を利用している方が2名あります。その仕組み等については理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、時間を取って十分に説明させてもらっている。家族への連絡として希だよりを発刊しており、お知らせ等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希だよりを年3回発刊しており、お知らせしている。又、面会時や電話にて随時に、近況を報告しコミュニケーションを深めている。	事業所では、家族等の来訪時に意見や要望を聞いている。感染症の流行下においては、電話連絡や事業所だよりの送付により、意見等を聞きとっている。利用者や家族等の要望を検討し、安全面に配慮しつつ面会を実施するなど、柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のケアカンファレンスや職員会議等にて職員の意見や提案を求め、働きやすい環境づくりに努めている。	管理者は、ケア会議や年1回の個別面談等、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員一人ひとりの得意分野を活かして仕事ができるようにすることで、働く意欲を引き出している。出された意見等は、内容に応じて、代表者に伝えるなどして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や適性に応じて、働きやすい職場環境にできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力に応じて、各種研修に参加してもらっている。又、各種資格取得に向けて、希望休を優先してとれるように配慮し、スキルアップする機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通して、顔なじみになり交流を深めている。法人内にもグループホームがあり、交流しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、いろいろな情報を入手し、本人様の状況を把握する。家族や担当ケアマネさんより生活状況・趣味等をお聞きし、本人様のニーズをじっくりと聞き取りし、入所後の処遇に役立てる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用に至るまでの経緯について聞けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所を促すのではなく、本人・家族の要望や状況をじっくり把握し、必要があれば他のケアマネや包括支援センターへつなぎ、他方面から支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の要望・状況をしっかりと把握し、家庭的な雰囲気のもと支援できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の体調や現況報告を行い情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防で面会の制限をしているが、短時間でも、面会できるように努めている。	事業所では、感染症の流行下において、利用者の希望に応じて、手紙のやりとりを支援している。また、家族から届いた写真を見つづ、会話をすることで、馴染みの人や場に対する思いが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は一人っきりで過ごされる時間を減らし、ホールにてレク活動を一緒に行い共に過ごしてもらうように努めている。又、季節に応じた行事や外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等には、時折、連絡を取り状況の把握に努め、場合によっては相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、本人の意向に沿った生活ができるように配慮している。意思疎通困難な方には、家族の意向や本人の立場で考え、より良い暮らしができるよう配慮している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の何気ない一言や表情の変化を捉え、介護記録等で気づきを共有している。意思の表出が困難な利用者についても、職員間で話しあい、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、家族やケアマネなどから丁寧に聞き取りを行い、入所後も本人の望む生活が継続しているか家族さんにも確認してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況・認知度の状況を把握し、生き生きと生活できるように努めている。又、本人の能力に合った支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等の意向を踏まえ、一人ひとりのニーズに合わせた介護計画を作成し実行している。又、定期的モニタリングを行い見直しをしている。	事業所では、利用者や家族等の希望を反映した介護計画を作成している。主治医や看護師の意見も取り入れ、心身状況やADLの向上に配慮している。月1回のモニタリングとともに、心身状況の変化に応じた見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や気づき等を個人記録し、職員間で情報を共有し、サービス担当者会議に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や新たなニーズに答えられるように担当職員を中心に方法を考え、答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の包括支援センターに相談したり、訪問看護師さんが来所してくれているので連携して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の受診を支援している。毎日のバイタルチェック等の記録等を活用し、診察時に報告している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医や専門医の受診には、職員がつきそっている。週1回、訪問看護を受け入れ、健康管理に努めている。夜間や緊急時にも適切に対応できる体制を整え、利用者や家族等の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師さんとの契約により、訪問看護師さんと連携して利用者さんの健康管理ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には、書面にて報告をし、入退院に備えている。退院時には、その書類を元に退院後の介護に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化・重度化により、今後のことを相談し、他施設に申し込んだり、事業所のできる介護の範囲を伝えたりしている。	事業所では、契約時の段階で、資料等を活用し、重度化や終末期における事業所の方針等について説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、利用者と家族等に意向を確認している。協力医や他サービス施設とも連携し、利用者や家族等が適切な環境のなかで、安心して暮らすことができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを事務所に設置している。使用方法も業者に年1回は講習して頂いている。応急処置等は、隣接の看護師さんに指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、行っている。防災訓練を通して災害に対する対応について学んでいる。又、近隣住民・隣接施設との合同防災訓練している。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。土砂災害危険地域に立地しているため、地滑りや水害等も想定し、避難経路を確認している。地域住民との協力体制や備蓄品を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている(排泄・入浴時)特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切にしている。言葉かけや対応について、職員間で注意しあっている。排泄の失敗があった際にも、羞恥心に配慮しつつさりげなく誘導し、自尊心を傷つけない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見や希望を大切にしている。又、訴えの少ない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても本人のペースに合わせるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びや身だしなみも季節や気温に合った衣類を選択できるように支援し快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、軽音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中で本人のペースで食事できるように支援している。	事業所は、利用者一人ひとりにあわせた形態で食事を提供している。食事の時間は、童謡や懐かしい歌を聴きつつ、自分のペースで食事ができるよう配慮している。おやつを作ったり、花見や夕涼み会など外で食事をとったりして、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の管理栄養士さんの作ったメニューを提供している。水分量は、食事時間+2回、回数多くして1日の水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	身体の健康は、口腔内からと考えており、毎食後の口腔ケアには力を入れている。声かけや誘導・見守り・ケア後の確認等実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、適時にトイレ誘導している。排泄の誘導や介助は本人のプライドを傷つけないよう配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、さりげない声かけと誘導で、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者が負担を感じることはないよう一人ひとりの状況にあわせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録より、適時に下剤を服用している。定期の通院時に軟便剤等を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の個別入浴を実施。本人の体調や希望で入浴日の変更もしている。R2年11月より1階の浴室にリフト浴を設置し、自力で入れない方にも浴槽につかることができるようになる。	事業所では、利用者の意向や体調にあわせて、少なくとも週2回の入浴を支援している。リフト浴を導入し、安心・安全な環境を整えている。入浴を拒む利用者については、声かけのタイミングを変えるなどして、無理強いすることなく、入浴を支援している。ゆず湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた寝具を使用している。日中は、ホールにて活動をできるように支援し、生活のリズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については薬手帳により確認している。服薬の際には必ず、名前・日付・朝・昼・夕の確認を行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて、洗濯物たみやホールの掃除など残存能力を發揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がいい時には、玄関先や敷地内の散歩などを行い外気浴している。又、定期的に外出支援で買い物に行ったり近くの公園などへ出かけている。	事業所では、気候のいい日に敷地内の散歩に出かけている。自動販売機に好きな飲み物を買って出かけることも支援している。感染症の流行下においても、秋には、少人数にわかれて菊人形展を見に行くなど、工夫しつつ外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、預かり金より支出している。本人の能力に応じて、金銭を持っていただき本人が支出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があるときは、随時電話を使用している。手紙にて県外へやり取りすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には、利用者や職員の写真を掲示したり、季節に応じて壁面に飾りつけをしている。利用者の作品（ちぎり絵）なども飾っている。	共用空間は、日当たりがよく明るい。廊下や居間には、季節の作品や行事の写真等を掲示し、季節感がある。温度や湿度、換気等にも配慮している。また、パーティションを設置するなど、感染症対策を行い、安全で居心地のいい共用空間となるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内のあちこち（玄関・ホール・廊下等）にソファや椅子を設置しており、自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、自宅で使用していたものの持ち込みも自由としており、なじみのものを使用している。又、家族の写真や趣味の作品を飾っています。	居室には、利用者の使い慣れた家具やこだわりなもの、趣味の作品等を持ち込んでもらっている。職員は、利用者とともに掃除を行うなど、清潔に配慮している。その人らしく、居心地のいい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓の机に杖ホルダーを設置したり、歩行器や押し車等、座席に座ったら移動の妨げのない場所に移動している。又、転倒しないよう廊下等片付けて自由に移動できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域における社会的役割を踏まえ、法人の理念や当所の理念に基づいて職員で共有し日々のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防による、自粛がある為敷地内施設間も交流しておらず、厳しい状況が続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により、地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、会議開催を見合わせている。運営推進会議メンバーには、状況報告を送付しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市町村へは、出向いたり電話などで状況を伝え、いろいろな情報を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修も行い職員間で共有し、職員相互で注意したり、身体拘束排除に向けたケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待においても、研修を行い職員全体で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、成年後見制度を利用している方が2名あります。その仕組み等については理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、時間を取って十分に説明させてもらっている。家族への連絡として希だよりを発行しており、お知らせ等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希だよりを年3回発行しており、お知らせしている。又、面会時や電話にて随時に、近況を報告しコミュニケーションを深めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のケアカンファレンスや職員会議等にて職員の意見や提案を求め、働きやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や適性に応じて、働きやすい職場環境にできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力に応じて、各種研修に参加してもらっている。又、各種資格取得に向けて、希望休を優先して取れるようにして、スキルアップする機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通して、顔なじみになり交流を深めている。法人内にもグループホームがあり、交流しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、いろいろな情報を入手し、本人様の状況を把握する。家族や担当ケアマネさんより生活状況・趣味等をお聞きし、本人様のニーズをじっくりと聞き取りし、入所後の処遇に役立てる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用に至るまでの経緯について聞けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所を促すのではなく、本人・家族の要望や状況をじっくり把握し、必要があれば他のケアマネや包括支援センターへつなぎ、他方面から支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の要望・状況をしっかりと把握し、家庭的な雰囲気のもと支援できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の体調や現況報告を行い情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防で面会の制限をしているが、短時間でも、面会できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は一人っきりで過ごされる時間を減らし、ホールにてレク活動と一緒にいき共に過ごしてもらうように努めている。又、季節に応じた行事や外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方等には、時折、連絡を取り状況の把握に努め、場合によっては相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、本人の意向に沿った生活ができるように配慮している。意思疎通困難な方には、家族の意向や本人の立場で考え、より良い暮らしができるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、家族やケアマネなどから丁寧に聞き取りを行い、入所後も本人の望む生活が継続しているか家族さんにも確認してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況・認知度の状況を把握し、生き生きと生活できるように努めている。又、本人の能力に合った支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等の意向を踏まえ、一人ひとりのニーズに合わせた介護計画を作成し実行している。又、定期的にモニタリングを行い見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や気づき等を個人記録し、職員間で情報を共有し、サービス担当者会議に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や新たなニーズに答えられるように担当職員を中心に方法を考え、答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の包括支援センターに相談したり、訪問看護師さんが来所してくれているので連携して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の受診を支援している。毎日のバイタルチェック等の記録等を活用し、診察時に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師さんとの契約により、訪問看護師さんと連携して利用者さんの健康管理ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には、書面にて報告をし、入退院に備えている。退院時には、その書類を元に退院後の介護に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化・重度化により、今後のことを相談し、他施設に申し込んだり、事業所でできる介護の範囲を伝えたりしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを事務所に設置している。使用方法も業者に年1回は講習して頂いている。応急処置等は、隣接の看護師さんに指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、行っている。防災訓練を通して災害に対する対応について学んでいる。又、近隣住民・隣接施設との合同防災訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には気を配っている(排泄・入浴時)特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見や希望を大切にしている。又、訴えの少ない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても本人のペースに合わせよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びや身だしなみも季節や気温に合った衣類を選択できるよう支援し快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、軽音楽を聴きながら、和やかな雰囲気の中で本人のペースで食事できるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の管理栄養士さんの作ったメニューを提供している。水分量は、食事時間+2回、回数多くして1日の水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	身体の健康は、口腔内からと考えており、毎食後の口腔ケアには力を入れている。声かけや誘導・見守り・ケア後の確認等実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、適時にトイレ誘導している。排泄の誘導や介助は本人のプライドを傷つけないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録より、適時に下剤を服用している。定期の通院時に軟便剤等を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の個別入浴を実施。本人の体調や希望で入浴日の変更もしている。R2年11月より1階の浴室にリフト浴を設置し、自力で入れない方にも浴槽につかることができるようになる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた寝具を使用し、日中は、ホールにて活動をできるように支援し、生活のリズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については薬手帳により確認している。服薬の際には必ず、名前・日付・朝・昼・夕の確認を行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて、洗濯物たたみやホールの掃除など残存能力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい時には、玄関先や敷地内の散歩などを行い外気浴している。又、定期的な外出支援で買い物に行ったり近くの公園などへ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、預かり金より支出している。本人の能力に応じて、金銭を持っていただき本人が支出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があるときは、随時電話を使用している。手紙にて県外へやり取りすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には、利用者や職員の写真を掲示したり、季節に応じて壁面に飾りつけをしている。利用者の作品(ちぎり絵)なども飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内のあちこち(玄関・ホール・廊下等)にソファや椅子を設置しており、自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、自宅で使用していたものの持ち込みも自由としており、なじみのものを使用している。又、家族の写真や趣味の作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓の机に杖ホルダーを設置したり、歩行器や押し車等、座席に座ったら移動の妨げのない場所に移動している。又、転倒しないよう廊下等片付けて自由に移動できるように配慮している。		